
小学校で出会った君に、もう一度。

ヒカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小学校で出会った君に、もう一度。

【Nコード】

N5987V

【作者名】

ヒカル

【あらすじ】

主人公の八神蓮也^{やがみ れんや}は小学校の頃に守城鈴伽^{もりしろ りんか}と言う女の子に告白した。鈴伽は蓮也に答えも出さずままに転校してしまう。小学校の頃からイラストサイトに入っていた、蓮也はある同い年の女の子と出会う。その子が一度、出会った女の子とは知らずに高校生になった。そして、その高校で――！！

駄文ですが、読んでいただけると嬉しいデス シ

プロローグ（前書き）

こんにちわ！初めまして、ヒカルです

この度は、恋愛小説を書かせていただきました！！
読んでくださると嬉しいデス ♪

ブローグ

高校生になった俺は、今でも君を探してる。

好きだった君を。

告白したけど、君は何も答えぬままに転校してしまった。

君は、俺の事をどう思っていたのですか？

俺は今も変わらない・・・

君が好きです・・・

転校してしまった君は今、どこにいる？

遠くにいる？

どこでもいいから、君に会いたい・・・

もう一度、告白して答えを聞きたい。

YES or NO

どっちかを・・・

そして、まさか高校で君に会えるなんて思ってもいなかった。

でも、俺は気付かなかった。

名前が変わっていたから・・・

それと、記憶喪失になっていた君は俺の事を覚えてもいなかったから。

小学校で出会った君に俺はもう一度、会いたい――

どうか俺を、小学校で出会った君に、もう一度、会わせてください・
・

プロローグ（後書き）

プロローグ、終わりました。

どうでしょうか？

意見等、ありましたらどんどん言っちゃってくださいね

読んでくださって、ありがとうございます♪

でわ、次回もよろしく願います

第1話 俺は君に恋をしてもいいですか？（前書き）

こんにちわ

やっと、第1話ですね！

はい、小学校の頃の話ですこしします！！

でわ、スタートッッ

第1話 俺は君に恋をしてもいいですか？

——これは、俺が小学5年生の頃・・・

俺はある女の子に恋をしていた。

その子は、もりしろりんか守城鈴伽。

髪はセミロングくらいでふわつとしたストレート。

目はくりっとしていて、男の子からは人気。

女の子からは‘りん’って呼ばれていた。

そんな女の子に俺は恋をしていた。

すこし目が合うだけでもドキッとしてしまう。

でも、俺は君に恋をする資格などない。

小学5年生にして話したこともない。

そんな俺が君に恋をしているのだろうか・・・？

「蓮也・・・大丈夫か？」

話しかけられて、ハッとなった。

そつえば今は掃除時間だった・・・。

「え・・・な、何が!？」

「ボーっとしてる・・・それじゃ、掃除してないお仕置きだな!」

デコピンをして、彼は掃除に戻った。

えと・・・くもたいち久本大智。

俺の幼なじみかな？

大智はストレートの髪にちよつとくせ毛がある。

シャープでもなく、くりくりしてない目。微妙・・・。

大智は・・・モテる!!

ハッ!!

またボーっとしてた・・・。

大智がいなか左右上下、居ない事を確認し、掃除に戻った。

上下じゃなく 前後です!! 間違いました・・・

x x x x x

家に帰り、俺は1人で思っていた。

「恋って・・・難しいんだなあ・・・」

やっぱ、俺には恋をする資格ないよね・・・

守城さん、ごめんね？

こんな俺が君に恋をしてしまっただけ・・・。

両想いになれないとわかっていても、恋って止められない。

それが・・・『恋』なんだろう・・・

あ！！

そういえば・・・明日・・・

席替えがあるよね！？

守城さんとなれないかな？

わがままだよな？ わかってる・・・でも、一緒になれないかって
考えてしまう。

それが、俺なんだ・・・

———この頃の俺は知らなかった。

君に会えなくなる日が来るなんて・・・———

そして、次の日。

「はい、では席替え始めます」

「早くしよーぜ！」

「先生、早く！」

などと、男の子の声が聞こえる。

先生、しゃべるの遅いから・・・

俺も、早く進めて欲しいな・・・

「静かにー！いつもと同じ、くじでいいかー？」

「「「おｋ・・・」」」

「よし、じゃあ男の子はこっち、女の子はこっちの箱から1枚紙をとって席に戻ってくださいー！書いてある数字が自分が座る席です」

「行こうぜ、蓮也ー！」

「うんー！」

席を立とうとした瞬間・・・

「ちょっとそこ待ったー！　まだいいとは言っていないよー」

この棒読みなのか、よく分からない声は、よく耳に入る。

そっか、まだいいとは言ってなかった・・・

「ちえー・・・まだかよー」

「では、もう取りに来てもいいですよー」

「よし、行こう！」

「うん！」

そして、俺が引いた数字は・・・

『5』。

5かぁ・・・微妙・・・

クラスは38人だけど・・・男子18人、女子20人だから・・・

女子が少し多いんだよね・・・このクラスは！

えと・・・前から、5列目のテラス側か・・・

まあまあ・・・かな？

隣の子は・・・？

第1話 俺は君に恋をしてもいいですか？（後書き）

終わりました！

第1話ながら、進み具合が早いですね><

えと

次回も、よろしく願いますッ

第2話 席替え！ ときどきしますね！（前書き）

更新、遅くてごめんなさいッ>（――）<
ホント、読んでくださる方がいる事に感謝ですッ
ありがとうございますッ！！

今回は、席替えですね

そして、鈴伽とは一緒になれるのかッ！？

でわ、始まりますッ♪

第2話 席替え！ ときどきしますね！

隣の席の子は………？

誰だろう？ チラッと見てみると……

「あ！穂高くん！？」

あ！？ え！？ マジで！？

っと、俺は思った。

そう、隣はなんと……鈴伽だった。

あまりの嬉しさでいっぱいだった。

それと、俺の苗字言い忘れてたけど……穂高^{ほだか}です！！ 穂高 蓮
也です！！

「あ、うん！守城さん！？」

「そっだよ？守城さんなんて、やめてよ！りん（ちゃん）、
でいいから」

「あ、うん！じゃあ、俺は「れん」でいいよ！りん……ちゃん、
よろしく？」

「うん、よろしくねっ、れん！」

2人は笑顔をみせて、班のご近所さんに挨拶した。

「れん」と呼ばれたのが、ものすごく嬉しかった。人懐っこい性格に、フレンドリー。いい性格してて、羨ましいなあ・・・!!

・・・後ろは、え！？ 大智！？ 前は、空我君。あまり話さない子だ・・・。

ま、まさか、運よく大智ともなれるなんて・・・。

「大智、よろしく」

「ああ、よろしく！掃除、サボんなよ！」

「あはは、分かってるって」

そして、空我君にも挨拶した。

「空我君！？よろしくっ」

「ふえ〜？よろしく〜」

この空我君は、よくポケーっとしてるから、電柱とかによく当たる。笑ったらいけないよ！？

これから、仲良くしていこうっ！

「はい、みなさん、もうご近所さんとの挨拶は終わりましたかい？」

終わりました……。女の子さんには、守城さんしか挨拶してないけど……。

他の子は……。誰だろう……。？

「それでは、みなさん、お掃除……。では無く、さようなら」

みんな、元気よく「さようなら」を言っただけで帰った。

掃除ないって、ラッキー！

「蓮也、帰る？ ちょっと寄り道してもいいか？」

「あ、うん！ いいよ？ 寄り道ってどこで？」

「……内緒」

お前は乙女かつ！！ って突っ込みたかったけど、あえてやめた。

なんとなく、何となくだけど……。大切な話、しそっだったから……。

大智に、連れられて来た場所。それは、ホント懐かしい場所だった――。

「ここ」

「懐かしいなあ……。！ 保育園以来な気がする……。！」

ここは、保育園のとき大智とよく遊びに来た公園。遊具も少なく、

追いかけてこばかりしていた。 2人で

「だっ！」

「 」

2人とも黙ってしまった。 なぜ？

なぜって言われたら . . . 大智が呼んだけど、大智から話さないから？

いや、そんなじゃない。 なぜかは、自分でもわからない。

でも、分かるのは大智が黙ってるって事イコール、大事な事を話すって事。 大智は、大事な事を言う時には黙る癖があるから

予想はしてたけど . . . ほんとにそうだったとは、思わなかった。

そして、大智が口を開く。

「蓮也 」

「ん？どうしたの？」

「なあ . . . 少し、遊ばない!？」

「あ、いいよ？」

「前みたいにな . . . とう . . 追いかけて」

「今やったら、絶対捕まる・・・」

「まあ、そんなの気にせず！じゃ、10数えるから逃げて？」

いーち、にー、さーん、っと大智の音がする。

その声が、保育園の頃を思い出させる。でも、今は違う。逃げないと・・・！！

「じゅー！！・・・よし、行くぞ！？」

うわっ！ もう、大智来てるしっ！！ ヤバイよ、これ。

タタタタ・・・。

大智早いっ！！ ちょ、もう・・・

「タッチ、蓮也おになー！！」

「ちえー、じゃ10数えるよ？」

目をつぶって数えてるため、タタタタタ・・・とだんだん音が薄くなっていく。

どこまで行ってるんだろうか・・・大智は。

10秒、たったかな・・・？

「じゅーっ！！」

つと、叫び辺りを見回した。

「……が、大智の姿はなかった。

え！？ どこに！？ ……どこだ？

あー！ もしかして……。あの場所に！？

と、思いその場所へ行った。そう、あの場所へ……。

「大智！？ ……だいと……いたーーーーー！！」

「……………」

「あれ……？ どうしたの？」

「この場所、いいよな……」

「うん！ 俺、この場所大好きだわ……」

この場所は、原っぱみたいところで草もキレイに咲いていて、転んでも気持ちいいくらい。

その原っぱみたいな所の前に、小さな池がある。その水も、あまり汚れてなくて夜来ると月が映っていてキレイ。

その場所で、大智は転んでいた。

「なあ……蓮也……」

「今度は、まじで話してみたいけど・・・」

「うん・・・あの・・・俺・・・」

第2話 席替え！ ときどきしますね！（後書き）

終わりましたー！！

苗字、言っの忘れてました・・・><

蓮也の苗字は『穂高^{ほだか}』デス！！！

途中からは、席替え終わりましたが・・・

次は、マジで重大な事言うカモです！！

次回も、よろしくお願いしますッ ミ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5987v/>

小学校で出会った君に、もう一度。

2011年11月13日19時44分発行